

すべての拉致被害者救出を!!

解決を願う県民一人ひとりの声は何よりも強い力となり、拉致問題の早期全面解決を実現します。

■北朝鮮当局による拉致問題の概要

1970年代から1980年代にかけて、多くの日本人が不自然な形で姿を消しました。これらの事件の多くには、北朝鮮当局により拉致(注)された疑いが持たれています。日本政府は、17名を拉致被害者として認定していますが、この他にも拉致された可能性を否定できないケースがあります。

(注)工作員の身分偽装や教育係として利用するため強制的に連れ去ること

2002年9月に北朝鮮が日本人拉致を初めて認め、同年10月に5人の拉致被害者が帰国しましたが、他の被害者については、未だ北朝鮮から安否に関して納得のいく説明がありません。

なお、国連では、2005年から毎年、外国人の拉致問題を含む「北朝鮮人権状況決議」が採択されており、北朝鮮への圧力は国際社会でも確実に強まっています。

■拉致被害者及びその御家族の状況

拉致事件は、既に発生から非常に長い年月が経過しています。多くの被害者が、無理やり家族と引き離され、北朝鮮に囚われたまま現在も救出を待っています。また、帰国を待ち続けている御家族にとってもあまりにも長くつらい日々が続いています。

このような中、御家族は、自ら立ち上がって全国で署名活動や講演活動など懸命に救出活動が続けておられますが、齢を重ねられ帰国を待ち続けているうちに亡くなられた方もおられ、残された時間はわずかありません。

■拉致問題の解決は国民的課題

北朝鮮当局による拉致は、誰でも突然連れ去られる可能性があった事件であり、拉致被害者や家族だけの問題ではなく、国民すべての課題と言えます。私たちも、自由と生命・身体の安全や家族の大切さを再確認すべきではないでしょうか。

また政府は、この問題の解決に向けて取り組んでいます。解決を願う国民の声が、大きな国際世論となり、松本京子さんをはじめとする拉致被害者の早期帰国への大きな力となります。

県民の皆さんのご支援をお願いします。

ブルーリボン

ブルーリボンは拉致被害者の生存と救出を信じる意思表示です。

ブルーは、拉致被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」と被害者と御家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。

「救う会」、「家族会」署名運動

■拉致被害者家族連絡会(家族会)と北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会(救う会)では署名運動に取り組んでいます。救う会のホームページより用紙をダウンロードすることができます。

救う会のHPアドレス <http://www.sukuukai.jp/>

下記鳥取県人権局のホームページにもリンクを掲載しています。

鳥取県 総務部人権局 人権・同和対策課

電話:0857-26-7590 ファクシミリ:0857-26-8138

HPアドレス:<http://www.pref.tottori.lg.jp/rachi/>



鳥取県内の拉致被害者等

発行：平成28年2月

■政府認定拉致被害者

まつもと きょうこ

- ①**松本京子さん**(米子市出身、当時29歳)：1977(昭和52)年10月21日、自宅近くの編み物教室に向かったまま行方不明。

■特定失踪者

(特定失踪者問題調査会(民間団体)の公表資料による)

ふるいちみずこ

- ②**古都瑞子さん**(日南町出身、当時47歳)：1977(昭和52)年11月14日、普段着で出かけたまま行方不明。自宅には旅行の切符やポケベルも置いたまま。

やくらとみやす

- ③**矢倉富康さん**(米子市出身、当時36歳)：1988(昭和63)年8月2日、一人で出漁して行方不明。元精密工作機械製作のエンジニアであった。

うえだえいじ

- ④**上田英司さん**(伯耆町出身、当時20歳)：1969(昭和44)年11月4日、「京都に行くてくる」と東京の下宿の家主に言ったまま行方不明。荷物は紙袋一つ。

■拉致の可能性を排除できない事案に係る人

きまちはやと

- ⑤**木町勇人さん**(大山町出身、当時20歳)：1975(昭和50)年8月25日、京都府宇治市の下宿先を出て以降、行方不明。

〔失踪位置図〕



拉致被害者 松本京子さんの事件

政府は、平成18年11月20日、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等の支援に関する法律」に基づいて、米子市の松本京子さんを拉致被害者に認定しました。(政府認定の拉致被害者としては、17人(12件)目。県内初。)



○失踪時の状況 -特定失踪者問題調査会の調査より-

- ・1977(昭和52)年10月21日午後8時頃、自宅近くの編み物教室に行くと言って自宅を出たまま行方不明。失踪時は、紺色のスカートとチョッキ・白色のブラウス・サンダル履きという普段着で、現金は所持していなかった。
- ・この日の夜、京子さんの自宅から約200メートル離れた家の人が、裏庭で京子さんと見知らぬ男が会話をしているのを目撃している。
- ・男性は2人で、1人が京子さんと会話をし、もう一人は見張りをしているようだった。
- ・このとき、目撃者が「何をしている？」と男に声をかけると、1人が殴りかかり、額に縫うほどの怪我を負わせ、海岸の方向へ逃げている。
- ・通報を受けた米子警察署が男2人を傷害の疑いで追ったが、捕捉できていない。

○失踪に係る不審な点

- ・海の方に向かって、何人かの足跡が残されていた。 ・京子さんのサンダルが片方だけ残されていた。
- ・当時、警察が不審な電波の交信を傍受していた。

拉致問題の主な動き

1970年代～80年代	多くの日本人が不自然な形で行方不明
2002(平成14)年 9月	第1回日朝首脳会談。北朝鮮は日本人の拉致をはじめて認めて謝罪
10月	5名の被害者が帰国
2003(平成15)年 1月	政府は拉致被害者支援法に基づく拉致被害者として15名を正式認定
2004(平成16)年 5月	第2回日朝首脳会談。拉致被害者の御家族5名が帰国
2006(平成18)年11月	政府が、松本京子さんを拉致被害者として認定(17人目)
2008(平成20)年 6月	日朝実務者協議。北朝鮮が拉致問題は「解決済み」との立場を変更し、再調査を約束
8月	日朝実務者協議。北朝鮮がすべての拉致被害者の調査を秋終了を目標に行うことで合意
9月	北朝鮮が、日本の新政権の北朝鮮政策を見極めるまで調査委員会の設置を延期すると通告
2012(平成24)年11月	日朝政府間協議(モンゴル・ウランバートル)。拉致問題について協議継続で一致
2014(平成26)年 3月	日朝政府間協議(中国・北京)。拉致問題について協議継続で一致
5月	日朝政府間協議(スウェーデン・ストックホルム)。拉致被害者及び拉致の疑いが排除できない行方不明者の方々を含む全ての日本人に関する包括的かつ全面的調査の実施合意
7月	北朝鮮の「特別委員会」による調査開始
9月	日朝外交当局官会合(中国・瀋陽)。北朝鮮は平壤への日本担当者の派遣を提案
10月	日本代表団平壤訪朝。北朝鮮特別調査委員会との協議
2016(平成28)年 2月	北朝鮮による核実験・ミサイル発射を受け、日本政府は制裁を強化。北朝鮮は再調査の中止を表明